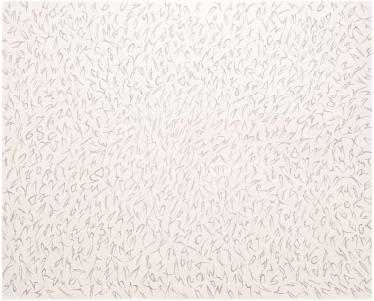

E-2411

アオト　ヒデキ

鉛筆、紙

本作では、文字を単なる言語的記号ではなく、詩的空間を生み出す造形的要素として捉えています。
伝統的な書道やカリグラフィーでは、筆致のリズムや線の流れも重要視されますが、本作ではその枠を逸脱し、意味の境界を曖昧にすることで、視覚的かつ身体的な感覚へと接続する文字のあり方を探求しました。
文字は、可読性と非可読性の狭間で揺らぎながら、均整のとれた構造と無作為性が交錯する画面を形成しています。
近づけば筆致の痕跡が現れ、離れれば全体のうねりが知覚されるこの距離感の変容により、鑑賞者の視線の軌跡そのものが空間に織り込まれていきます。
また、文字の配置にあたっては、魚群の集合的な動きから着想を得ています。
個々が独立した軌跡を描きながらも、全体として一つの流れを生み出す現象は、本作における文字のあり方と重なります。
筆致の強弱や余白の取り方によって動きのリズムが生まれ、視線がそれに沿って動くことで、新たな秩序が立ち現れます。
本作は、文字と空間、視線の動きが交差する場として、鑑賞者の身体感覚と知覚のあいだに詩的な揺らぎを喚起する試みです。